



# 放射線だより

2024年12月  
No. 29 (隔月発行)  
担当：馬場俊明

Wilhelm・Conrad・Röntgen  
ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン  
1895年 X線発見

from Radiation House

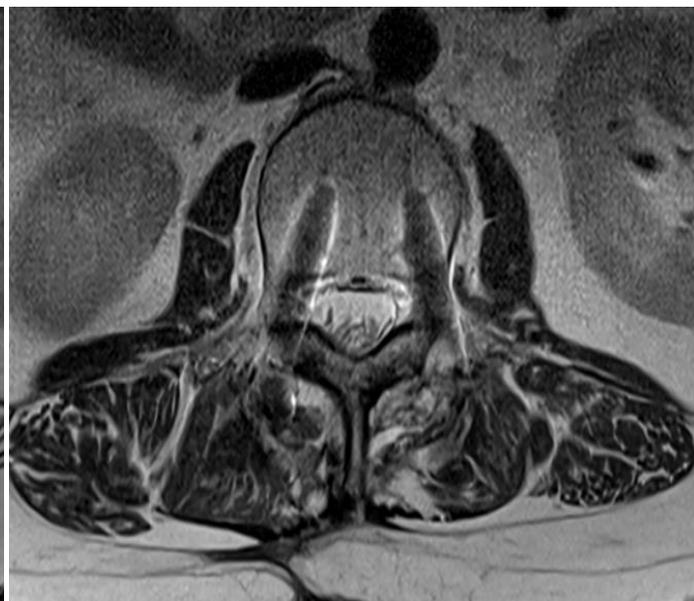
## MRI検査における外せない金属（人工関節や固定ボルトなど）に対する撮影

当院のSiemens社製（1.5T）MRIにはVATという金属アーチファクト低減撮影法を活用できます。

同一患者のT<sub>2</sub>強調 横断面



TSE



VAT

整形外科領域における人工関節や固定ボルトなどの金属がある場合、以前までのMRIでは画像評価することは困難でした。

今後も機械や技術の更新に伴い、診断に役立つ画像を提供していきたいと思えます。  
（文責：鈴木優太）

# 骨密度測定検査



骨密度は骨の強度を示す指標です。

骨に含まれているミネラル(主にカルシウムとリン)の量を測定し骨の硬さや丈夫さを評価します。

## 【当院での検査方法】

デュアルエネルギーX線吸収法(DEXA法)

2種類のX線を使って骨と軟部組織のX線吸収率の差を利用して測定します。

腰椎、大腿骨近位部、前腕で測定しています。

## 【結果表で見るべき数値】

『YAM:Young Adult Mean』

若年成人平均値と比較することで現在の骨密度がどれくらいのレベルにあるか評価。

80%以上:骨密度が正常範囲内

70%-80%:骨密度がやや低下している状態

70%未満:骨密度が大幅に低下している状態で、骨粗鬆症と診断される可能性あり

『Tスコア』

個人の骨密度がYAMからどれだけ離れてるのかを標準偏差で表したものの。

-1.0以上            正常

-1.0から-2.5      骨量減少

-2.5以下            骨粗鬆症

検査結果を参照される際にご覧ください。(文責:金浜)